第1回蒲郡市生涯学習推進計画2022策定委員会　会議録

日時：令和３年７月２６日（月）
午後１３時３０分～１５時５０分
場所：蒲郡市生命の海科学館メディアホール

■委員出席者（計１２名、敬称略・順不同）

石川たづ子、青木宣貴、伊藤健二、鈴木庸子、大須賀めぐみ、中村達、小林浩子、
足立泰敏、松山照夫、稲吉初美、新井麻利子、中山弘之（オンライン参加）

■事務局

壁谷教育長
【生涯学習課】三浦課長、伴、早川、廣中
【（株）ジャパンインターナショナル総合研究所】宮内、竹内

■次第

（１）教育長あいさつ
（２）委員長、副委員長選出について、委員自己紹介
（３）蒲郡市生涯学習推進計画 2022 について
（４）策定委員会スケジュールについて
（５）策定の進捗状況について
（６）令和２年度市民アンケート、団体アンケート集計結果報告について
（７）意見交換
（８）その他

■開会

（事務局）

それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます。委員の皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。只今より、第１回生涯学習推進計画 2022 策定委員会」を開催します。始めに、蒲郡市生涯学習推進計画 2022 策定委員会設置要綱により、本日の出席者が定足数を満たしておりますことをご報告させていただきます。

はじめに、配布資料の確認をさせていただきます。

＜配布資料の確認・資料説明＞

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

（１）教育長あいさつ

(事務局)

本日は第１回目ということで教育長にご出席いただいております。蒲郡市教育委員会を代表しまして壁谷教育長よりごあいさつをいただきます。

(壁谷教育長)

それでは改めまして、みなさんこんにちは。あわせて中山先生大変お世話になります。

大変暑い中、ご多用の中、本生涯学習推進計画２０２２の策定委員会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。学校のことを少し紹介させていただきます。ここ数日、去年のことを思い出しておりました。去年は実は夏休みが短縮されていまして、８月の１日から８月の１６日が夏休みでありましたけれど、今年は予定通り７月２１日から夏休みを迎えております。学校訪問でたくさん学校をまわらせていただきましたけれど、コロナ禍において子どもたちや先生方が大変ひたむきに頑張っている姿を見て、大変嬉しく思っております。

また、コロナ禍の中で、格段と進んだことがありまして、いわゆるギガスクール構想が一気に加速をしてまいりまして、１人１台のタブレットを使いながら、例えば塩津中学校の授業で言いますと、中学３年生が、俳句を学習する場面を見させていただきました。１人１台のタブレットには友達の作った俳句がタブレットの中に収納されておりまして、それを見ながら友達の句の良さをお互いに語り合う、そんな素敵な授業でありました。子どもたちは一生懸命に頑張っているわけで、私ども教員がいかにこのタブレットを使った授業を今後構想していくか、このあたりが１つの鍵を握っているところであります。

その一方で、７月に入りましてから、２つの発表会に参加させていただきました。１つは、豊橋市民文化会館の東三の芸能大会で、コカリナの演奏とか、市吹の演奏がありました。それからこの連休中の７月２２日は、春の文教まつりが延期されまして、市民会館での芸能発表会ということで、私が見させていただきましたのは、大正琴でありますとか、詩吟でありました。その姿を見ながら、今まで練習する機会がほとんどなくご家庭での練習が続いている中で、大変生き生きと演奏されている姿を見て、早く精一杯練習できる状況になればいいなと、そんなことを思いながら、開催していただいた文協のみなさんに感謝をしているところであります。

前置きはそれくらいにしまして、生涯学習の推進計画につきましては、現行計画が第３期となる５年計画で、本年度が最終年度であります。昨年度から準備を始めておりまして、今年１年かけて次期計画を作成し、令和４年度から第４期の計画が新たにスタートします。昨年度は、公民館のあり方としてグランドデザインが策定され、今日お越しいただけるメンバーの皆さんにも大変お世話になりました。このグランドデザインでも、学校や地域とともに市内全体で、今まで以上に社会教育に取り組んでいくことを強化していくことが示されております。

今回の計画策定にあたりましては、市の行政においても横の連携を強め、より効果的な計画としていくために、行政としての取り組みや課題などについて話し合っていく庁内検討会を並行して開催していきます。また市民の皆様から広くご意見いただく、ワークショップの開催を

予定しております。このようにこれから策定していく生涯学習推進計画は、公民館をはじめ、様々な教育施設での活動、地域の問題解決の取り組み、各課で行われている、学びにつながる活動など、他にも様々なことが関係しているものであります。皆様方にはそれぞれのご立場から活発なご意見をいただけたらと思っております。蒲郡市ならではの市民のための生涯学習推進計画とするためにご協力くださるようお願いをさせていただきまして、私のあいさつとさせていただきます。どうぞ今日はよろしくお願いいたします。

■議事

（２）委員長、副委員長選出について、委員自己紹介

（事務局）

ありがとうございました。それでは次第２の委員長、副委員長選出に移ります。

まず委員委嘱についてです。蒲郡市生涯学習推進計画２０２２策定委員会設置要綱第３条によりますと、委員は市社会教育委員、各種団体の代表者、その他市長が必要と認める者のうちから市長が委嘱することになっております。委員は１３人で、任期は推進計画策定の日までです。委員の皆様の委嘱状は、机上に置いてありますのでご確認ください。

それでは、委員長、副委員長選出について生涯学習課三浦課長より説明させていただきます。

（事務局：三浦課長）

それでは私から、委員長、副委員長の選出についてご説明させていただきます。

まず、委員長につきましては、蒲郡市生涯学習推進計画２０２２策定委員会設置要綱第５条第２項にありまして、委員の互選による選出となっております。今回はじめての会議ということもありますので、事務局からの提案ではございますが、昨年度、公民館のあり方を考える、「公民館グランドデザイン検討委員会」で委員長をお務めいただきました、中山教授を今回の策定委員会の委員長に推薦したいと思いますので、ご審議くださるようよろしくお願いいたします。

（事務局）

只今の提案につきまして委員の皆様にご審議いただきたいと思います。ご意見等ありましたらお願いいたします。はい、それではご承認いただけます方は拍手をお願いいたします。

＜一同、拍手＞

（事務局）

ありがとうございました。それでは、中山先生よろしくお願いいたします。

（中山委員長）

只今推薦していただき委員長を務めさせていただくことになりました愛知教育大学教育学部准教授の中山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本来ですと策定委員会の設置要綱の第６条の会議の運営について定められておりまして、第１項をみますと、委員会会議は委員長が招集して委員長が議長となるということになっています。本来であれば私が進行を引き受けることとなりますが、事情がありましてオンラインの参加ということで、議会の進行を私

が担当するということはなかなか難しいこともあり、今回の委員会に関しましては、引き続き事務局のほうで進行をしていただきたいと思っておりますので、皆さんよろしいでしょうか。

＜一同、拍手＞

（中山委員長）
　ありがとうございます。それでは、事務局のほうで引き続き進行していただきますので、よろしくお願いいたします。
（事務局）
　それでは承知いたしました。引き続き事務局のほうで進行を務めさせていただきます。それでは、副委員長につきまして、三浦課長よろしくお願いいたします。
（事務局：三浦課長）
　それでは、引き続き副委員長についてご説明します。策定委員会の設置要綱におきまして、副委員長は委員長が指名するとなっております。中山委員長より副委員長のご指名をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
（中山委員長）
　副委員長の指名ということですけれども、蒲郡市では社会教育のことについては、社会教育審議会のほうでいろいろ審議していただいてお世話になっているところであります。副委員長につきましては、社会教育審議会の会長を務めておられます足立泰敏さんにお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

＜一同、拍手＞

（事務局）
　足立先生よろしいでしょうか。
（足立副委員長）
　ありがとうございます。委員長を補佐しつつ、いい形で会議が進行できればと思っております。どうぞ皆さんよろしくお願いいたします。
（事務局）
　ありがとうございました。それでは委員長の就任あいさつも合わせまして、自己紹介に移ります。委員長より順番に自己紹介をお願いします。

＜委員自己紹介＞

（事務局）
　ありがとうございました。皆様計画策定までどうぞよろしくお願いいたします。また、この推進計画の策定は、プロポーザルにより選定された業者の方にお手伝いいただくことになっています。株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の宮内様と竹内様です。

（３）蒲郡市生涯学習推進計画２０２２について

（事務局）

次第の３に移ります。「蒲郡市生涯学習推進計画２０２２」について担当から説明させていただきます。

＜資料に基づき事務局説明＞

（事務局）

こちらの内容にご意見やご質問はありますでしょうか。よろしいでしょうか。

委員長から何かありますでしょうか。

（中山委員長）

２つ質問したいと思います。まず１つ目ですが、今回新たな推進計画を策定するにあたっては、第３期の計画がどうであったかの評価が大事になってくるかと思います。評価として身の丈に合った施策として基本スタイルに沿った事業展開はできたんだけれども、人生１００年時代など新たな展開については、反映されていないということなんでありますけれども、この件に関して、もう少しお話を聞かせていただきたいです。

あともう１つですが、今回の２０２２の推進計画の策定にあたっては、文化芸術を新たに組み込んでいくということが１つの目玉と認識しているのですが、これまでの文化芸術の施策に関しては、どういったことで基本的な計画が策定されていたのかを参考までに教えていただければと思います。以上です。よろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございます。これまでの現行計画の評価ということですけれども、今までの生涯学習の取り組みがどうだったのかについて、現在、市役所内の全課に投げかけております。その結果を集約しまして、現行計画の進捗状況を図ってまいりたいと思っております。

文化芸術に関してですが、現行計画の中では、文化芸術活動の充実という基本施策のもと、伝統文化・郷土芸能の支援、歴史的遺産の学びの充実ということで、主要施策として計画に盛り込み作っているのですが、今回、文化振興基本計画というのを、市町村の努力義務で作っていってくださいということで、単独の計画ではありませんが、今回蒲郡市としましては生涯学習推進計画の中に盛り込んで、包含して作っていくということで考えております。

（中山委員長）

ありがとうございます。１つ目の質問で、私の聞き方がまずかったと思うのですが、人生１００年時代について反映されていないということが今回の資料に書かれていて、それがどういう意味なのかということが聞きたかったというのが質問の真意でした。また、会議の場で教えていただければと思います。

（事務局）

先生の言われる通り、現行計画には「１００年時代」という文言が入っていなかったと思いますので、今回の計画では、「１００年時代」という視点から、公民館と地域のかかわりですとかそういったところも盛り込んで作っていけたらと思っております。

（中山委員長）
　ありがとうございました。
（事務局）
　他にご意見等はございますか。

（委員）
　今の先生のお話にありますように、評価をしていくということが大事なことでありますが、評価の視点をどういったところに持ってくるかです。こういった会議が昨年度からいろいろな領域でなされているのですが、５年で現状の課題を研究して修正していくという小刻みな改革がされているという方向性でありますが、次世代、３０年、５０年後の世相を私たちなりに踏まえて、現状を評価していくということが必要ではないでしょうか。ある意味では、リセットしてしまう思い切った考え方もありかなと思います。僕らは経験則でものを言ってしまっていることが多くなっていますが、過去の経験が今の時代には通らないということがいっぱいあるわけで、そういった意味からすると今の若い世代あるいは、３０年、５０年先を見通した視点を僕たちがこういう構想を作るときに持っていくべきであろうと感じております。感想です。
（事務局）
　現行計画では課題と施策はあるものの、明確な指標は盛り込まれていませんでしたので、今回新たな計画では目標となるような指標といったもの、例えば市民の方の満足度であるとか、数値を測れるような指標を作っていきたいと思います。この後でも説明いたしますが、新規計画ではそういった指標を皆さんと作っていけたらと思っております。

（４）策定委員会スケジュールについて
（事務局）
　それでは次第の４に移ります。策定委員会スケジュールについて担当から説明させていただきます。

＜資料１に基づき事務局説明＞

（事務局）
　こちらの内容につきまして何かご質問はありますでしょうか。ご質問等ないようですので、次に移ります。

（５）策定の進捗状況について

（事務局）

続きまして、策定の進捗状況について担当より説明させていただきます。

＜資料に基づき事務局説明＞

（事務局）

説明がありました内容につきまして、ご質問はありますでしょうか。ご意見でも構いません。委員長どうでしょうか。

（中山委員長）

ワークショップに関する質問です。今のところ思うように参加者が集まっていないということで、参加者数の目標としては３０名となっているかと思いますが、現状ではどれくらい集まっているのでしょうか。

もう１つは、生涯学習推進計画というのはこの委員会を中心にやっていって、市民のワークショップにおいて、各種の地域の団体ですとか、企業ですとか、あと役所の方の意見を聞きながら、策定していくということですが、ワークショップは一般市民の方の声をつかむ機会として非常に重要な機会だと思っているのですが、人を集めていくということでどのような方法を考えているのかを教えていただきたいです。

（事務局）

市民の方に広報するときには「広報がまごおり」を使うのですが、そちらで周知しましたところ、応募の方が４名となっています。待ちの状態ではお申し込みはなかなか難しいので、例えば観光ボランティアさんなど関係する団体にお声がけさていただいております。

（中山委員長）

ありがとうございます。公募ということだけですと、ご指摘のように広報をみるということがなくて、申し込もうというきっかけが出てこないというのはあり得ることです。最初のうちは関係する団体の方から人を集めていって、それを広げていくという視点が大事だと思います。あとは、社会教育をよくご存じの方に集まっていただくというのも大事な観点だと思いますので、今日集まっていただいている委員の皆様、特に社会教育審議会の委員の皆様のお知り合いの方にも声をかけていただいて、３０名全員集まるようにしていただくというのが、有効な方法ではないかと思っております。ワークショップが成功に終わることを祈っております。

（事務局）

ありがとうございます。他にご意見等よろしいでしょうか。

（委員）

ワークショップですが、やはり若い子どもたち、若い人たちのために、今からどうやって蒲郡市を作っていくのか、住みやすい町にしていくのかという観点から、社会教育や生涯学習というのに取り組んでいただきたいと考えています。そこでこういうワークショップなどは高校に出向いて行って実施してはどうかと思います。蒲郡ですと３校高校がありますので、そこで

高校生の意見を聞いていただきたいです。大学も１校ありますので、そこに行ってワークショップを開いて、若い人たちの意見を聞いてはどうでしょうか。愛知工科大学には蒲郡市の生徒さんがあまりいないというのは聞いていますが、日本国中から若い人たちが集まってきているので、そういう若い方が社会教育や生涯学習にどういうことを思っているのか、もしかしたら興味がないとか、興味がないならどうしたら興味が出てくるのか、そういうことを聞けたらと思います。参加を待っているのではなく、市のほうから出かけて行ってやっていただきたいなというのが私の意見です。

（委員）

私も同感です。特に工科大学の生徒さんの専門領域、先生も含めて、地域に貢献してもらえるようなかたちができるといいかと思います。その第一歩として、ワークショップに参加いただくのがいいのではないでしょうか。あと、ワークショップのテーマですが、「地域で学ぶ、学びを地域で活かす」ではなく、「地域で学ぶ、学びを地域に活かす」としてはどうでしょうか。学びを独り占めするのではなく、学んだことは関わった地域で広げていくということが大事だと思います。先ほど紹介いただいた中日新聞にあります通り、地域に関わりを持つ、関わりを持つということは、地域を学ぶことに関わることでありますから、これを地域に活かす、さらに自分が関わった地域にこの考え方をあてはめていくということからいうと、「地域に」としたほうがよいと思います。若い人たちは構想を練るだけではなく、それを実際の活動に移していくことが大事です。

総合学習の基本的な考え方は、学んで何する、何々という後の活動が非常に大事な学習であったのですが、現場が非常に手のかかる学習で、みんなが手を抜いてしまったということがありました。当時は２０１０年代ですが、学力試験やＯＤＡの国際学力比較でがたんと下がって、ゆとり教育が絶たれて、それとともに総合的な学習も衰退していくというとても悲しい経緯があります。そこで、この生涯学習も学んで何々する、何々するっていうのが地域との関わり、そういう部分を強調していく中で、若い世代はもちろんですが、もっとアクティブな生涯学習ができればと思います。単にインプット型の学びではなく、アウトプットの学習に展開していくというのが今後の課題になってくるのではないかと思っております。

（事務局）

高校生には声かけはさせていただいているのですが、市の教育政策推進室というところで８月１日に同じようなワークショップやまちづくりフォーラムがあり、そちらに動員がかかってしまっているということがあります。こちらのワークショップと日程が近くなっており、こちらのほうにも何人か参加させてほしいという話しがしづらい状況となっています。こちらとしましても、子ども交流などのボランティア活動をやっている高校生、ガールスカウトの高校生などに声かけはしているのですが、みんないろいろと忙しいので、また出てきてもらうのは大変ではないか、と感じています。先ほどのご意見を参考にこちらが出かけて行くという機会がとれるかについては検討させていただきます。ご意見ありがとうございました。

他にご意見はよろしいでしょうか。ご意見等ないようですので、次に進みます。

（６）令和２年度市民アンケート、団体アンケート集計結果報告について

（事務局）

令和２年度市民アンケート､団体アンケートの結果について担当から説明させていただきます。

＜資料２に基づき事務局説明＞

（事務局）

ありがとうございます。すごく細かく分析をしていただいておりますので、盛沢山だったと思います。これから５分ほど休憩を入れたいと思います。開始は１５時１５分からとします。

＜休憩＞

（事務局）

続きを始めたいと思いますが、集計結果で１点訂正がありまして、団体の集計調査結果の７３ページ以降のところですが、参考集計として回答者分類別クロス集計という表があるのですが、そこの文化協会と公民館の名前の位置が逆ではないかと今気がつきまして、もう一度きちんと検証させていただいて正しいものを差し替えさせていただきます。申し訳ありません、よろしくお願いいたします。

（７）意見交換

（事務局）

意見交換に入る前に、７月に第１回目の庁内検討会を実施したと先ほど報告いたしましたが、その時の各課の課長から出た意見を抜粋して、紹介させていただきます。そちらを聞いていただいたうえで、皆さんから順に意見をいただきたいなと思います。

＜資料に基づき事務局説明＞

（事務局）

補足で庁内検討会にどこの課が参加されているかというのは、蒲郡市生涯学習推進計画２０２２策定員会設置要綱の資料にありますので、参考にしていただければと思います。

それでは時間のほうが押してはきているのですが、せっかくなので皆さんから１人ずつご意見をいただきたいと思います。一言ずつで結構ですので順番にお話しいただいてよろしいでしょうか。

（委員）

アンケート結果とかを詳しくお聞きすると、ますます図書館の果たす役割は大きいなと思いました。コロナ禍で強く思ったことですが、やはり図書館は利用してもらってなんぼという、そういう施設だなと思いました。例えば金曜日に赤ちゃんを抱いているお母さんと子どもさんが来ることがありますが、来るだけで鬱々としていた気分が晴れるとか、そういうお話も伺いますし、そこから市のサポートにつながったという例もあります。あと、パンフレット等を配

布するなど、ハードルを低くして、外国人の方に多文化コーナーを利用していただいたりもしています。あと、利用の時間が６時から７時になったので、仕事が終わった後も利用してくださる方が増えてきています。ですが、実は豊橋のまちなか図書館が８時まで開館するということに伴って、８月１日から大清水図書館と向山図書館の開館時間が短縮されるそうです。ですので、今まで利用していた方が利用できなくなってしまうという、利用したいのに５時に終わっちゃうという状況です。生涯学習を推し進めていきましょうというためには、ハードルを下げていかなければならない、ニーズをどんどん掘り起こしていかないといけないとすごく感じました。

（委員）

蒲郡は「芸術のまち、蒲郡」と言われ続けてきました。今はどうなのかなと疑問を感じるところがあります。活動団体が練習をしたくてもできないというのはこのアンケートの通りで、発表する場もない、練習する場もない、もうやる場がないということで、みんなやる気がなくなっていってしまうという残念な状況になっています。コロナだからということもあるかもしれませんが、それを何とか乗り越えてやっていきたいという思いで続けております。

そこで大切なのが、若い人の力だと思います。この人たちが生涯自分の生きがいだとか、自分磨きをするために、仕事とは別に、そういったものを持つということが、自分が輝ける、生き生きと生きていける、そういうものになるんだろうと思います。それを持ち続けるために、継続してやっていけることはすごく大事だと思っております。そのためには、若い人や中高年、様々な年齢の人が、年齢を越えて参加できる場づくりを蒲郡市が率先して作っていかなければと思います。高校生は高校で、大人は大人で、お年寄りはお年寄りでやればいいといった分断されたものではなくて、年齢を越えてつながってやっていけてこそ生涯学習なのではないかと私は思います。今、中学や高校で部活動もなかなかやれない状況になっています。そこで地域の力を持った人がそういうところに出かけて行って、かかわりを持つことによって、継続したものができるのではないかなとすごく希望的なものを持っております。

（委員）

庁内検討会の各課の意見というところで、公民館の悪いところを指摘いただいていたのですが、これを読むと悪いイメージに感じるのですが、公民館については公平になるよう職員一同で常に努力してやっております。確かに既得権益を使った専有とか、そういうことも一部にはありますが、こういうことがないように一生懸命頑張っております。

それと、アンケートの結果を年代別にみますと、７０歳以上が非常に多い、とび抜けて多いということがあります。２０代から４０代がほとんどゼロに近い。これは公民館の大きな課題としてとらえております。ここ数年、小学生を含めた１０歳代に、積極的に公民館を使ってもらおうということで考えております。１０歳代、子どもたちが公民館を使用してもらえれば、彼らが６０代、７０代や年代になったときに公民館を活用してもらえるのではないかと期待をしておりまして、今１０歳代に何とかしようとしているところです。

（委員）

私は託児のボランティアをさせてもらっています。市のほうで養成講座を発足したのが、２５年くらい前になりますが、先ほどアンケートをみると、養成講座での託児サービスのニーズが１％程度で、とても少ないと思いました。昔、自分の子育ての時代は、働いていないお母さんたちがいっぱいいましたので、託児付きの講座がいっぱいあり、そんなところに参加した人がまたボランティアとして参加されたりということがあったのですが、今の時代ではフルタイムで働いているお母さん達が多くて、２歳、３歳で保育園に預けている場合も多いので、親子広場なんかでも１歳代の子がほとんどで、産休育休の時しかそういったことにかかわりがないということもあり、生涯学習的なことにも関われない若い人も増えているのかなと感じています。仕事の合間で生涯学習講座にもかかわっていただけるといいなと思いました。

（委員）

私のイメージからすると、生涯学習は余暇であり、個人の学びという感じですが、アンケートの結果からも時間がない、忙しいという理由が出てくるわけで、それを越える場づくりと、内容的な魅力をどう工夫していくかということが必要だと思います。

場づくりの中心は現状では公民館であるわけですが、公民館を地域に活かすことが大事です。義務教育の学校と並列させて生涯学校で、よりよい市民づくり、あるいは、生涯学ぶ人間づくりをやっていくのはどうかと思います。私自身が蒲郡の２０校のうち、半分を義務教育、残りの半分を生涯学校にしていくという構想を持っているわけですが、そのような場づくりをしていくことが必要だと感じています。その中で、今回はもっと緩い条件にして、どちらかというと人が交流するというカフェテラスのような感じにしていって、自由に１人でも多くの人がそこに寄れるような場にしていく中で、学びを自分たちで作っていくことが大事だと思います。既成の講座を用意する売り手市場の講座ではなくて、自分たちで作り上げていくことが大事です。

（委員）

文化協会について先ほどのアンケートにあったように、高齢化というのは別に悪いことではなく、みんな高齢になっていくわけです。会員が高齢化してそこで切れるのではなく、別に高齢化していても、次に入ってくる人がいれば、別に問題ないと思うのです。若い人に焦点をあてるのも重要ですが、高齢者と中年とのバランスをとっていくこともすごく重要なことだと思います。

それと、芸術分野は文化協会でやっていますよ、とあちこちで声があがることを願っています。いろいろ分散していますので、それを文化協会でできるかたちになっていけばいいと思います。

それと、生涯学習の方から、例えば商工会議所を定年退職した人たちに対し、定年後の生きがいづくりとして様々な提案をし、アプローチをしていったらどうでしょうか。定年になった人たちが、行先とか不安になっている人がいるのではないかと思います。私の個人的な意見でが、そういうところにアプローチしていくといいのではないかと思います。

（委員）

社会福祉協議会では、庁内検討会の各課のご意見の中の、３番目の「ちいきの先生」事業は

コロナ禍で話が進められない状況の中、社会福祉協議会と長寿課だけでなく、生涯学習課の方、市内の企業など、普段色々な方にご意見いただいたりして進めています。連携をしながら進めていくことが大事だと思います。

企業の方と個人のボランティアなど、そういうところから一つずつ繋いでいくことが大事ですので、連携していろいろな意見をいただきながら、進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

（委員）

推進計画２０１７をみて、関わっていたことを思い出しました。ところが、作ったが何もしていないまま今に至ったというところで、作って終わりじゃないということを感じました。計画は作って終わりではなく、これを庁内で毎年進捗管理をやってもいいのかなと思いました。その結果、もう少しでできるところは進めていけばいいと思います。それと、もしかしたらこの時代に合っていないというものも入っていると思うので、定期的に見直しをすることも必要だと思います。計画期間終了時に考えるよりは、１年後２年後に方向を修正していくなど、できていないものはどうやったらできるのかを考えていく必要があると思いました。

もうひとつは、今ある既存の講座と同じ講座、例えば、お花の講座はもう既にあるから、もうひとつのお花の講座はやらないとかそういうのではなく、公民館の中でも同じ講座がいっぱいあってもいいと思います。今までの、こうあるべき、こうするものだという考え方をやめていくといいのかなと思います。

（委員）

私は長い間ボランティア活動をやっていて偉いと言われますが、好きなことをやっているだけなのです。皆さんが自己研鑽のために、講座を受けて自分のスキルを上げていくことは素晴らしいのですが、それは自分の中だけではなくて、誰かの役に立ってはじめて嬉しいと思えるのです。いろいろなスキルがありますので、一概には言えませんが、好きなことの先がボランティア活動なのです。仲間が集まればそれを必要としてくれる方がいるので、私はこれができる、あれができると言っていることが大事で、自分たちだけで終わってしまうのだけでは本当にもったいないと感じています。経験値はすごく大事なことだと思うし、若い人に素晴らしいスキルを繋げることができるのは、経験値を持った高齢者じゃないかと思います。地元で自分のスキルを活かせることが生涯学習ではないかと思っています。

（委員）

社会人の２０代から５０代向けの勉強会セミナーは通常の業務として１０講座以上やっております。推進計画の一部を担うという意味合いで会議所は含まれたと感じでおります。こうしたしっかりした書類が届いても普通ではスルーしてしまいます。会議に出てこういう話し合いをしたとあれば目にとまりますし、意識改革もできると思います。今回はこのような会議に出させていただいてよかったと思っています。

（委員）

青年会議所も、企画・立案・検証をして反省をするということで、このサイクルをつくっていかないとみなさんの貴重な時間が無駄になってしまいます。

発信については、広報がまごおりで発信しているということですが、私自身、広報がまごお

りをしっかり読むようになったのは青年会議所に入ってからです。若い世代に発信するにはＳＮＳがよいと言われますが、ＳＮＳは興味がないことはスルーしてしまいます。なので、いかにして関心を持ってもらうかが大事で、その仕掛けがこれから必要だと思いました。今日いろいろな意見を聞かせていただいて、私としても何をしていくべきかをしっかりと考えて次の会議に臨みたいと思います。

（事務局：三浦課長）

先ほど公民館の悪い所の話がありましたが、会議で他の課の意見をいろいろ聞きました。我々が頑張っていろいろなことを発信していっても、よそからはそうは見られていないということを考えていただくいい例かなと思います。ひとつの意見に対して、違う視点から見ることで得られるものが違ってくるという気がします。私は競艇事業部に勤めていたことがあるのですが、宣伝の仕事をやっている時も、競艇場前の駅で名鉄を利用していた若い子たちが「ここって競艇場があるんだっけ」と言っており、こんなに頑張って宣伝しても知らない人がいっぱいいることを実感した経験があります。それぞれの団体の皆さんが支えて、頑張って発信していくと。それをどうやって受け止めてもらえるかということを考えていかなくてはいけない時代だと思いました。

（事務局）

みなさんありがとうございました。身近な話題で参考になるお話を聞かせていただきました。それでは最後に委員長のほうにお話を伺います。

（中山委員長）

皆さんの意見を聞きながら、５点わかったことがあります。

まず、１点目ですが、そもそも生涯学習とは何かということをおさえていけるといいのかなと思いました。一般的なイメージとして、生涯学習と言いますと、時間に余裕がある人の余暇活動として捉えられる傾向がありますが、生涯学習とは、ユネスコが１９６５年に生涯教育構想というのを出し、それが発展していって今日の生涯学習になっています。生涯教育構想は、時代、社会の変化の流れが激しくなっていく中で、学校教育だけではなかなか対応しきれないところがあるので、学校教育、家庭教育、社会教育を有意的に繋げていこうという構想です。したがって、生涯学習とは、学校教育をどうやって改善していくかを含めた構想であるということを理解していただけるといいかと思います。そうすると、会議の中で議論になっていましたが、若い人、小学校、中学校、高校、大学の学生さんとどう繋がっていけるのかを追求することが必要だと思います。

２点目ですが、若い人たちに生涯学習や社会教育をイメージしてもらえない最大の要因は、教育を学校教育だと思っていることです。そのことが１番大きいと思います。私は大学で社会教育を教えていますが、社会教育や生涯学習ってこうだと教えると、多くの学生は自分たちが身近に関わってきたことが生涯学習、社会教育だったのだという感想を述べます。そうしたことからわかることとして、若い人たち、生徒と関わっていく人たちの課題は、生涯学習や社会学習の存在をどうやって知ってもらうのか、実はそれに自分たちが関わっているということをどうやって知ってもらうのかを考えていくことが重要だと思いました。そこに気づいてもらえれば、高校生や大学生の協力も得られやすいと思いました。博物館とかに行くと小学生、中学

生、高校生は結構います。あといろいろなクラブで地域施設を利用したりしていますが、それが生涯学習や社会教育だと思っていないのです。自分の活動の一環として思っています。そこを社会教育、生涯学習の枠でとらえられるかがわりと大きな課題であると思いました。

３点目ですが、若い人たちや、働いている人たちにどうやって生涯学習に関わってもらう場を作るかということです。施設を開いて来るのを待っているというのではなかなか難しいということがあるので、実際にいろいろな活動をしている高校生や大学生、例えば高校の場合だと生徒会ですとか地域で活動しているクラブ活動、大学の場合は学生会、地域で活動している団体に参加している人、こういう子どもたちが地域に関心を持っていると思います。そういう人たちと、事業レベルで連携できるかどうか。これは生涯学習に関わる職員にどれくらいの余裕があるのかにもよるのですが、こうしたことを追求していく視点が、学生たちに広げていくきっかけになるのではないかと思っています。特に、高校生でもいわゆる進学校でない高校に通う子たちは地元に残る可能性が高いので、高校生との関わりを追求していくことが大きな課題だと思います。あと、働いている人たちにどう関われるかということですが、働いている人たちに学ぶ余裕がある時間帯は、やはり夜間であり、夜間、休日に社会教育施設なりで、生涯学習の講座を行えるような体制を整備できるかどうかの追求が不可欠ではないかと思います。

４点目ですが、社会教育や生涯学習といった時の重要な課題は、そうした学びと地域をどうつなげていけるかという点です。蒲郡も様々な地域課題があるということですので、そうしたことを生涯学習や社会教育にどう繋げていくかも追求していきたい課題です。あともう１点視野に入れておけるといいのは、個人の学びも意外に重要だということです。特に、働いている人たちや学んでいる高校生、大学生の場合だと、日常生活のストレスもありますので、放課後や休日を使って、どうやってコントロールできるかも重要な課題です。そうした点から考えると、やはり個人の学びであるとか、余暇活動を生涯学習でどうやって保証できるのかも大事です。本人の学びと地域づくりのバランスをどうやってとるか、推進計画づくりの中で考えていけたらいいかなと思います。

最後５つ目ですが、生涯学習や社会教育の評価に関わる問題提起があったと思います。これに関しては、社会教育、生涯学習の世界ではまだまだ研究が進展していないというのが正直なところです。どうしても行政が関わる評価は、数値的に評価する視点が大きなものになりかかっているのですが、それだけではなく、学んでいる人たちの変容であるとか、学んでいる人たちが学んだことをどう活かせたか、こうしたものを取り入れられないかというのが現在検討されています。ですので、そうした点も話し合える委員会であればいいなと思います。少し長くなりましたが、今後、委員会でも検討して、身の丈に合っているけれども、夢があるそういう計画作りが進められたらいいなと思います。

（事務局）

ありがとうございました。以上をもちまして、第１回蒲郡市生涯学習推進計画２０２２策定委員会を終了させていただきます。

最後に、事務連絡をさせていただきます。次回は９月末頃を予定しております。日程調整をさせていただきまして、連絡をさせていただきたいと思っております。長時間にわたりありがとうございました。